
人生に一度はラブレターを

あん子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

人生に一度はラブレターを

【Nコード】

N7146V

【作者名】

あん子

【あらすじ】

生まれ変わるなら、男の子になりたい——
そう願った女の子が、開き直ってモテモテになろうとするお話です。
たぶん。

神様からのラブレター

私は、男の子になりたい。

いつからか、私の心の奥底にはそんな思いがあった。

別に女の子が好きとか、そういうわけじゃない。女の子はむしろ苦手だ。

ならば何故か——それはきつと単なる憧れだったのだ。

小さなころは、男も女も関係ない。一緒になって、遊んで、笑う。だけどいつしか男女の間には見えない壁が出来る。一緒に遊んだりなんてしないし、仲良くすればからかわれる。

それが、嫌だった。

見えない壁を通して見た男の子たちは輝いていて、まぶしくて、ひどく羨ましかった。

女の子同士で遊ぶのも悪くはなかったが、ボールを持って駆けていく男の子たちの後姿を見つめてはため息をついていた。

「まさかこんなことになるとは……」

少々シリ阿斯気味に思いを語ってみたのはいいものの、現実からは目をそらせない。

やっぱり男の子になりたいなんて願うんじゃないかと、と呟いて私は目の前の小さな手を見下ろした。

私こと、渡辺忍は中学校三年生の女の子である。

受験を間近にひかえ、そこそいい成績で、そこそいい高校に行

くために必死になつて勉強していた。

家から歩いて十五分ほどの進学塾への道で、単語カードと睨めっこしながら歩いている途中に泥酔車に轢かれるまでは。

かなりの勢いで地面と熱烈な抱擁を交わした私は、真っ白なもやがかかったかのような頭で、願ったのだ。

次に生まれ変わるなら、かつこいい男の子になりたいなあ……と。

そんなこんなで、なぜか私の願いは叶えられてしまったのである。
前世の記憶というオプシヨン付きで。

神様からのラブレター（後書き）

衝動のままに書いてみたのでいろいろ変です。すみません。

初めてのラブレター

三歳になりました、忍です。

あるあるネタだけど、赤ちゃんプレイを乗り越えました！やったね！正直、地獄だった。一人でトイレが出来るようになることが、こんなに嬉しいことだとは思わなかったよ。

オムツをしているとはいえ、もらすのは本当にきつかった。つい我慢しすぎてしまったりとか……。

この羞恥プレイを乗り越えた私は、ひとまわりもふたまわりも大きく成長したはずだ！

それに股間の違和感にも慣れた。最初は大変だったけどね……。

閑話休題。

私は今、幼稚園に通っています。なんていうか、ママさんたちに人気です。

赤ちゃん期間のせいで忘れてたけど、かっこいい男の子になりたいって願ったんだよね。

そのせいだと思うけど……ぶっちゃけ、美少年です。

色素の薄い茶色でサラッサラの髪に、色白でうっすらと紅い頬。大きな目は少しつり目気味で、二重で、小ぶりの鼻と口が可愛い。初めて鏡を見たときは、神様やりすぎじゃねって思った。正直ナルシストさんとかショタコンさんの気持ち分かる。分かりたくなかったけど。

そして気が付いたことがある。

私はてつきり普通に生まれ変わったのだと思っていたけど、少し違うみたいなのだ。

簡単に言つと、逆行？のようなものである。

男の子になつた私の生年月日は1996年の7月7日で、女の子のころとまったく一緒だ。

両親も、名前も、通っている幼稚園も同じ。つまりこれは、過去に遡つて、性別だけ変わった状態なのだろう。いわゆるiフルトつてやつだ。

これは嬉しい誤算だつた。

もう昔の友達とは会えないか、会えても昔のような関係に戻るのとは不可能だと思つていたから。

まあ男の子になつちやつたからどっちにしる無理だけど……。

とりあえず前向きに頑張ろうと思う。昔と違って私のスペックは高い。

私の未来は、たぶん明るい……と思う。

くまさん柄のラブレター

ラブレターを、もらった。

くれた女の子の名前は熊谷なつみちゃん。高めで結ったツインテールが愛らしい四歳児だ。

先に、言っておこう。

私は断じてロリコンではない！

たしかになつみちゃんはかわいい。優しい子だし、ちょっぴり照れながらラブレターを渡してきたときのあの表情といたら！あのはにかみが堪らなくかわいいんだよな――

ってまでまで。これではロリコンという不名誉な称号をもらってしまふ。

ていうか、心は女の子だから！

これは恋愛感情などではもちろんなくて、子を見守る親のような感じだ。そう、親バカ。

というわけで愛しい娘からの手紙を読もうと思う。

折りたたまれた、クマのプー太郎ー柄の便箋をそつと広げる。

.....。
.....。
.....。よ、読めない.....。

なつみちゃんはひどい悪筆だった。いや四歳だからしかたないんだけども。

それにしても読めねえ。まわりの子と比べて見ても、群を抜いて汚いのではないだろうか。

それから1時間ほど頑張って見たものの、ほとんど解読できなかった。

しかし努力のあとは見える。何回も書き直してある字とか……読めないけど。

お返しもしなくちゃね。

この手紙は大事に取っておこう。なんてったって、初めてのラブレターだ。

次の日にクッキーをあげた。すごく喜んでくれたけど、やはり四歳児は色気より食い気なのか、デコレーションされたクッキーに夢中で私のことは見向きもしない。

これが娘に彼氏が出来て置いてけぼりにされる父親の気持ちというものなのだろうか……。

絶対違うだろ、と自分にツッコみつつそっと涙を拭いた。

ラブレターは大人の味

幼稚園に、新しい先生が来た。

瑞樹祥子です。しょうこせんせいって呼んでね。

そう言った先生は、どうやら、

シヨタコンだったらしい。

日に日に熱のこもる視線に、私は叫びたい気分だった。

そうか……見た目がいいって、いいことばかりじゃないんだね……。身をもつてそのことを教えてくれた祥子先生に感謝する気には、これっぽっちもなれないが。

しかもときどきこちらを見て、何かつぶやいているのまで聞こえる。誰かアアアアアア！！ここに犯罪者予備軍がいますうううう！！！！

一応フオローをいれると、もちろんいつもそんな変態チックなわけではない。

ときどき、ほんのごくたまに、漏れ出るだけだ。

それまでかぶっていた優しい優しい幼稚園のせんせい、という皮が破けて唇の端や目元に僅かな……萌え、とでも言うべきものが。

前世でも友達に数人そういった人種の人がいたから、割とすぐにわかった。

このひとは——まあ、そういう人なんだと。

そんなわけで、最初にかわいらしく「しょうこせんせい、よろしくね!」と言ったことを反省し、大人しく祥子先生と呼んでいる。正直、調子に乗ってぶりっ子になっていた過去の自分を殴りたい。なんて迂闊だったんだ……自分のバカ!

今では祥子先生、と堅苦しく呼ぶたびに残念そうな顔と次こそは、という期待のこもった目で見られる。

べ、別に拗ねた様な表情がちょっと可愛いとか思っていないんだからね!?

いやでも、この人でよかったと思う。少々視線が痛いときもあるけど基本的には無害だ。優しいし。

これがもつとガチな変態さんだったとしたら……ゾツとする……。

今回の教訓は、愛想は振りまく人を選ぶ、ということ。

今までのアイドル系イケメン路線は変更だ。これからはクール系、たまに見せる笑顔が可愛い路線で行こう。

結局、根本的なことに關しては全く反省していない私であった。これからの精進に期待……。

ラブレターは大人の味（後書き）

書いている途中、Gの黒い悪魔が出ました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7146v/>

人生に一度はラブレターを

2011年12月3日13時47分発行